

令和 6 年 5 月 24 日

各都道府県教育委員会教育長
各指定都市教育委員会教育長
各都道府県知事
各国公立大学法人の長
各国公私立高等専門学校長
大学又は高等専門学校を設置する各地方公共団体の長
各文部科学大臣所轄学校法人理事長
構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の
認定を受けた地方公共団体の長
各大学共同利用機関法人機構長 殿
国立教育政策研究所長
科学技術・学術政策研究所長
日本学士院長
日本芸術院長
各文部科学省独立行政法人の長
各文部科学省国立研究開発法人の長
日本私立学校振興・共済事業団理事長
公立学校共済組合理事長

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部長

笠 原 隆

(公印省略)

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰候補者の推薦について（依頼）

このことについて、内閣府政策統括官（防災担当）から別添 1 のとおり依頼がありました。

については、別添 1 及び「推薦に当たっての留意事項」（別添 2）を踏まえ、防災思想の普及又は防災体制の整備について、顕著な成績を挙げ又は功績があった者など、防災に関し全国民の模範となり、かつ「防災の日」において内閣総理大臣が顕彰するに足る者がある場合は、別添 3 に示す推薦書等を令和 6 年 6 月 7 日（金）までに提出願います。また、推薦書等を提出する前に、文部科学省担当まで推薦予定がある旨を連絡願います。

なお、都道府県教育委員会教育長におかれては、所管の学校及び指定都市を除く域内の市区町村教育委員会に対して、指定都市教育委員会教育長におかれては、所管の学校に対して、都道府県知事におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対して、国公立大学法人の長におかれては、その設置する学校等（附属学校を含む）に対して、独立行政法人国立高等専門学校機構におかれては、その設置する高等専門学校に対して、大学又は高等専門学校を設置する地方公共団体の長及び文部科学大臣所轄学校法人理事長におかれては、その設置する大学等に対して、構造改革特別区域法（平成 14 年法律第 189 号）第 12 条第 1 項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校設置会社に対しても周知し、推薦がある場合はとりまとめいただくようお願いします。

担当：大臣官房文教施設企画・防災部

参事官（施設防災担当）付防災調整係

電話：03-5253-4111(内線 2290)

別添 1

府政防第 8 6 7 号

令和 6 年 5 月 2 2 日

文部科学省大臣官房長 殿

内閣府政策統括官（防災担当）

高橋 謙司

（公印省略）

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰候補者の推薦について（依頼）

標記について、別紙 1 から 4 を御承知の上、表彰範囲に該当する者がある場合には、別添書式等により令和 6 年 6 月 1 7 日（月）までに推薦願います。また、該当する者がいない場合もその旨回答願います。

なお、別紙 4 のとおり、関係府省庁におかれては、ご推薦いただいた候補者について、審査委員会による審査を行いますので、その際は御協力願います。

「防災の日」及び「防災週間」について

〔 昭和57年 5 月11日 〕
閣 議 了 解

1. 政府、地方公共団体等防災関係諸機関を始め、広く国民が、台風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波等の災害についての認識を深めるとともに、これに対する備えを充実強化することにより、災害の未然防止と被害の軽減に資するため、「防災の日」及び「防災週間」を設ける。
2. 「防災の日」は、毎年 9 月 1 日とし、この日を含む 1 週間を「防災週間」とする。
3. この週間において、防災知識の普及のための講演会、展示会等の開催、防災訓練の実施、防災功労者の表彰等の行事を地方公共団体その他関係団体の密接な協力を得て全国的に実施するものとする。
4. 『「防災の日」創設について』（昭和 3 5 年 6 月 1 7 日閣議了解）は、廃止する。

防災功労者表彰要領

〔 昭和57年5月13日
事務次官等会議申合せ 〕

「防災の日」及び「防災週間」について（昭和57年5月11日閣議了解）に基づく防災功労者の表彰は、この要領に基づいて行うものとする。

なお、「防災功労者表彰要領」（昭和35年7月21日事務次官等会議申合せ）は、廃止する。

1 表彰の範囲

防災に関し、次の各号の一に該当する個人又は団体であって、全国民の模範となり、かつ、「防災の日」において内閣総理大臣が顕彰するに足るものとする。ただし、防災に関し、同種事由に基づき国の栄典を受けたことのあるものは除く。

- (1) 災害時における防災活動について顕著な成績を挙げ又は功績があったもの
- (2) 防災思想の普及又は防災体制の整備について顕著な成績を挙げ又は功績があったもの

2 表彰者

内閣総理大臣

3 表彰の方法

表彰状及び記念品

4 表彰の時期

毎年9月1日とする。

5 表彰の手続

関係各省庁から推薦されたもののうちから内閣総理大臣が定める。

6 関係各省庁の表彰

関係各省庁においては、内閣総理大臣の表彰に準じ、必要に応じて、防災功労者の表彰を行うものとする。

防災功労者表彰候補者推薦要領

〔昭和59年 7 月 1 日〕
〔内閣官房長官決定〕

防災功労者の内閣総理大臣表彰の範囲及び推薦の手続等については、「防災功労者表彰要領」（昭和57年 5 月13日事務次官等会議申合せ）に定めるところによるほか、下記により行う。

記

1 表彰の範囲

- (1) 「防災功労者表彰要領」の「表彰の範囲」の項に定める各号の一に該当する個人又は団体で、原則として関係大臣若しくはこれに準ずる者等から表彰を受けたことのあるもの又はこれらのものと同程度以上の顕著な成績を挙げ若しくは功績があったものとする。
- (2) 防災に関し、褒章を受けたもの及び昭和39年 4 月29日以後において勲章を受けた者は、除くこととする。

なお、各年度の 9 月 1 日以降 8 か月以内に叙勲の候補者又は褒章の候補者になり得るものも除くこととする。

- (3) 「防災功労者表彰要領」 1 の(2)により内閣総理大臣表彰を受けたものは、表彰の対象としないこととする。ただし、そのものがさきに表彰を受けた事由以外の事由による場合にあっては、この限りでない。

2 関係各省庁の推薦

- (1) 「防災功労者表彰要領」の「表彰の手続」の項にいう関係各省庁は、同要領の「表彰の範囲」に掲げる事項に関し、監督又は指導を行っている省庁とする。ただし、地域的な防災活動に顕著な成績を挙げ又は功績があったもので、表彰に適するものがある場合においては、各省庁所管の範囲を超えて推薦して差し支えないものとする。

なお、特に、現場ないし第一線従業者等の中からの推薦を配慮することとする。

(2) 推薦の時期は、毎年7月20日までとし、当日が日曜日に当たるときは、翌日までとする。

(3) 推薦に際しては、推薦されるものの経歴、表彰の理由となる成績又は功績を具体的に明記し、個人、団体を通じ順位を付するものとする。

なお、関係大臣又はこれに準ずる者等から表彰を受けたものについては、当該表彰の実施状況を添付することとする。

3 表彰数

個人及び団体を通じて15ないし20とする。

4 表彰式

表彰式は、原則として毎年9月1日に行い、式後記念パーティーを開く予定とする。

防災功労者内閣総理大臣表彰候補者の推薦手続きについて

平成 14 年 6 月 25 日
内閣府政策統括官（防災担当）決定
令和 5 年 10 月 10 日
一部改正

内閣府政策統括官（防災担当）は、「防災功労者表彰候補者推薦要領」（昭和 59 年 7 月 1 日内閣官房長官決定）に基づき関係府省庁から推薦のあった防災功労者内閣総理大臣表彰候補者について、下記の委員会を開催しその功績等に関する審査を行うものとする。

記

1 名称

防災功労者内閣総理大臣表彰候補者審査委員会（以下「審査委員会」という。）

2 委員長

内閣府政策統括官（防災担当）

3 副委員長

内閣府大臣官房審議官（防災担当）

4 委員

内閣府大臣官房人事課長

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（総括担当）

警察庁警備局警備運用部警備第三課長

総務省消防庁総務課長

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官（施設防災担当）

厚生労働省社会・援護局総務課長

国土交通省総合政策局技術安全課長

国土交通省河川局防災課長

防衛省人事教育局人事計画・補任課長

5 事務局

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（総括担当）に置く。

6 その他

審査委員会の委員については、必要に応じて関係府省庁の表彰担当課と協議の上見直すこととする。

防災功労者表彰受賞者選考の考え方

以下の区分に従い、主に次のような観点から総合的に検討の上、選定する。

1 災害時の防災活動

- 貢献度：当該活動が、災害対応にどの程度貢献したか
- 困難性：当該活動が、どの程度の困難性を伴ったか
- 継続性：当該活動の期間

2 防災思想の普及・防災体制の整備

<自主防災組織等の民間活動>

- 優良性：当該活動に創意工夫が見られるか、有効性が高いか
- 活動頻度：当該活動がどの程度の頻度で行われているか
- 継続性：優良な取組についての活動期間

<有識者の研究活動等>

- 貢献度：国の防災施策の充実強化等に対する貢献度
- 活動実績：国の専門委員等の活動期間

推薦に当たっての留意事項

「防災功労者表彰候補者推薦要領」（昭和59年7月1日内閣官房長官決定）において、「1 表彰の範囲（1）」として『原則として関係大臣若しくはこれに準ずる者等から表彰を受けたことがあるもの又はこれらのものと同程度以上の顕著な成績を挙げ若しくは功績があったものとする。』とされていますが、これを踏まえ、文部科学省としては、具体的には下記の者を推薦の対象としているので、御留意ください。

また、推薦書等を提出する前に、文部科学省担当まで推薦予定がある旨を御連絡ください。

記

1. 文部科学大臣から表彰を受けたことがあるもの
2. 他省庁の大臣から表彰を受けたことがあるもの

文部科学省推薦の過去5年間の受賞者一覧

※職業は受賞当時のもの

※【】内は主な受賞歴

■令和5年 市村 強 東京大学地震研究所 教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（若手科学者賞），H19】

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞），R2】

今村 浩 信州大学医学部附属病院高度救命救急センター長

【日本オープンイノベーション大賞（厚生労働大臣賞），R2】

久保 達彦 広島大学大学院（大学院医系科学研究科） 教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞），R5】

小山 真人 静岡大学 教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞），R5】

齋藤 大輔 千葉学園高等学校 教員

【優良少年消防クラブ・指導者表彰（総務大臣賞），R4】

廣井 悠 東京大学先端科学技術研究センター 教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（若手科学者賞），H24】

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞），R5】

目黒 公郎 東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター 教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞），H22】

■令和4年 岩橋 政宏 長岡技術科学大学工学研究院教授

【情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞，R4】

大友 康裕 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授

【救急功労者表彰（総務大臣），R3】

加藤 愛太郎 東京大学地震研究所教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞，H23】

菊本 統 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞，H24】

佐竹 健治 東京大学地震研究所教授・所長

【防災功労者防災担当大臣表彰, R2】

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞, H24】

堀 宗朗 国立研究開発法人海洋研究開発機構部門長

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）, R2】

【ガス保安功労者経済産業大臣表彰, R2】

千葉学園高等学校消防クラブ

【消防庁長官賞（総務省）, R1】

■令和3年 三谷 泰浩 九州大学教授

【宇宙開発利用大賞（環境大臣賞）, R2】

■令和2年 岩田 孝仁 静岡大学特任教授

【防災功労者防災担当大臣表彰, H30】

木村 哲也 長岡技術科学大学技術経営研究院准教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）, H30】

三好 建三 理化学研究所研究管理職

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞, H26】

山本 晴彦 山口大学教授

【科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）, R2】

■令和元年 福和 信夫 名古屋大学教授

【文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）, H19】

【防災功労者防災担当大臣表彰, H26】

明石 真言 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構上席研究フェロー

【原子力・放射線安全管理功労表彰（文部科学大臣）, H17】

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門

福島研究開発拠点 福島環境安全センター

【文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門）, H31】

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰候補者 推薦における提出書類について

被推薦者ごとに下記の推薦書等を作成し、電子媒体を提出先メールアドレスまで、ご提出ください。

記

提出期限

令和 6 年 6 月 7 日（金）必着

提出書類

（必須の提出書類）

① 推薦書

- ・ 個人又は団体のいずれか。（別添Wordファイル内に記入例あり）

② 功績調書

- ・ 個人又は団体のいずれか。（別添Wordファイル内に記入例あり）
- ・ 功績調書は、何時、何処でどのような状況のもとに何をどのようにして、個人又は団体が行ったかを具体的に記載してください。

③ 証拠資料（１）

- ・ 防災思想の普及又は防災体制の整備について、大臣から表彰を受けたことがわかる資料を添付してください。

④ 証拠資料（２）

- ・ 功績調書に記載した候補者の事実行為の裏付けのための証拠資料を様式自由で添付してください。
（例）研究業績の概要、新聞や雑誌の記事、写真等

（該当する場合の提出書類）

⑤ 被害・出動状況等調書

- ・ 別紙 2 の防災功労者表彰要領の 1（１）に該当する場合。
（別添Wordファイル内に記入例あり）

提出先

bousai@mext.go.jp

【本件連絡先】

大臣官房文教施設企画・防災部
参事官（施設防災担当）付防災調整係
電 話：03-6734-2290
メールアドレス：bousai@mext.go.jp

① 〔書式（個人）〕

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰推薦書

			推薦順位	
省 庁 名	文部科学省	区 分		
ふりがな 氏 名		生年月日 (年齢)		
職 業		公 職		
表 彰 歴				
功績概要				
功績概要 の ポイント				

① 〔書式 (団体) 〕

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰推薦書

			推薦順位	
省 庁 名	文部科学省	区 分		
ふりがな 団体名等		ふりがな 代表者名		
所 在 地				
表 彰 歴				
功績概要				
功績概要 の ポイント				

①〔記載例（個人）〕

令和6年防災功労者内閣総理大臣表彰推薦書

			推薦順位	1
省庁名	消 防 庁	区 分	日本海中部地震関係	
お ぬ 氏 名	しょうぼう はなこ 消 防 花 子	生年月日 (年齢)	昭和〇年〇月〇日生 (〇〇歳)	
職 業	秋田県北部漁業協同組合事務員	公 職		
表 彰 歴	令和〇〇年10月25日 消防庁長官表彰（防災功労）			
功績概要	<p>氏は、令和〇〇年5月秋田県を襲った日本海中部地震による津波に際し、自らも津波の危険にさらされながら、有線放送により繰り返し避難を呼びかけ、その沈着、冷静な行為をもって漁民多数を救出し、人命救助に多大の貢献をした。</p> <p>※活動期間（例H26.4～R5.4等）、活動頻度、委員会の委員活動の履歴、表象の有無等を具体的に記載</p>			
功績概要 の ポイント	<p>令和〇〇年5月26日正午、突如として発生した日本海中部地震は、かつてなかった大津波を伴って八森町沿岸を襲い、死亡者10名、家屋、倉庫、船舶の流出、破損、沈没など数しれず、未曾有の大災害をもたらした。</p> <p>氏は、当日、勤務先の北部漁協の鉄工所で執務中に大地震に見舞われ、それがおさまって間もなく、テレビに津波警報のテロップが出たため、窓の下の方を見ようと約30～40人の漁民が舟の手入れなどの作業中であった。そこで、備え付けの有線放送のマイクを握り、避難を呼びかけた。それを聞いた人々は直ちに避難したため、その直後に襲来した津波をかりうじて逃れることができた。</p> <p>氏は、放送中に津波に襲われ、避難できずに押し流されたが、かりうじて柱につかまって助かったもので――。</p>			

①〔記載例（団体）〕

令和 6 年防災功労者内閣総理大臣表彰推薦書

			推薦順位	2
省 庁 名	国土交通省	区 分	令和〇年台風10号による集中豪雨	
ふりがな 団体名等	かすみがきまちしょうぼうだん 霞が関町消防団	ふりがな 代表者名	けん せ いち ろう 団長 建設 一 郎	
所 在 地	東京都千代田区霞が関2丁目1番3号			
表 彰 歴	令和〇〇年11月26日 国土交通大臣表彰（水防功労）			
功績概要	<p>同消防団は、令和〇〇年8月東京都を襲った台風10号の影響による集中豪雨に際し、3日間にわたり、延べ182名が出動し、降り続く豪雨という極めて困難な状況の下、昼夜にわたり水防活動を行うとともに、住民の避難誘導、人命救助活動を行い、一人として人的被害を出さず、平素の防災意識の高揚活動とあいまって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>			
功績概要 の ポイント	<p>1. 豪雨による出水に際し、土のう積(1,650袋)等の水防活動を行い、被害の拡大を防止した。</p> <p>2. 豪雨により、危険となった73戸191名の住民を無事避難誘導した。</p> <p>3. 霞が関川の増水により、孤立した10世帯28名をゴムボートにより無事救出した。</p> <p>4. 砂防ダムと化した貯水池の排水作業を実施し、二次災害を防止した。</p> <p>延出動人数 182人</p> <p>人的被害 なし</p> <p>被害防止額 約4億5千万円</p> <p>激甚災害の指定 令和〇年10月2日 政令第〇〇号</p> <p>：</p> <p>：</p> <p>以下 略</p> <p>※災害派遣部隊の場合には活動日数、延べ動員数を具体的に記載</p> <p>※それ以外については、活動通算年数、活動頻度（月に1回等）を具体的に記載</p>			

②〔記載例（個人）〕

推薦省庁名（ ○○○○○○ ）

功 績 調 書

1. 被表彰者の氏名等

ふり	かな	しょう	ぼう	はな	こ
氏	名	消	防	花	子
生年月日	昭和00年00月00日生（00歳＝令和5年9月1日現在の年齢）				
住	所	秋田県山本郡八森町字△△×××番地			
本	籍	同	上		
職	業	無	職		

2. 略 歴

- ・ 学 歴
昭和00年3月 日 秋田県〇〇学校卒業
- ・ 職 歴
自 昭和00年00月 秋田県北部漁業協同組合事務員
至 現 在
- ・ 団体歴
なし

3. 表彰歴

令和00年00月00日	秋田県知事表彰
令和00年00月00日	消防庁長官表彰（防災功労）

4. 功績内容

令和00年5月26日正午、突如として発生した日本海中部地震は、かつてなかった大津波を伴って八森町沿岸を襲い、死亡者10名、家屋、倉庫、船舶の流失、破損沈没など数しれず、未曾有の大災害をもたらした。

氏は、当日、勤務先の……………
……………多くの人々の人命を救った功績は誠に顕著である。

：

：

以下 略

②〔記載例（団体）〕

推薦省庁名（ ○○○○○○ ）

功 績 調 書

1. 被表彰団体等の名称等

ふり がな	かすみがせきまちしょうぼうだん
団体名等	霞が関町消防団
ふり がな	けん せつ いち ろう
代表者名	団長 建設 一郎
設立月日	昭和40年1月20日
住 所	東京都千代田区霞が関2丁目1番3号

2. 団体等の規模等

・ 規模・組織等

ア. 規模

団員数	100 名	団 長	1 名
		副団長	1 名
		分団長	4 名

イ. 組織

別紙のとおり

・ 沿 革

昭和○年○月○日	永田町消防団発足 （団員数 50名）
昭和△年△月△日	霞が関消防団に改組 （団員数 80名）
昭和×年×月×日	………に基づき、霞が関町消防団に改編 組織強化 第4分団増設 （団員数 100名）

現在に至る

3. 表彰歴

平成○年○月○日	東京都知事表彰（消防協力者表彰）
令和△年△月△日	国土交通大臣表彰（水防功労）

4. 功績内容

同消防団は、令和○年8月東京都を襲った台風10号の影響による集中豪雨に際し、…
……… など被害の軽減に多大な貢献をした。

（1）水防活動による被害の拡大の防止

①令和○年○月○日16時から降りだした雨は、………
………小河川は次々と増水が始まった。

②………
……… などの水防活動により浸水等の被害を最小限に食い止めた。

(2) 流域住民の避難誘導

①.....

..... などの避難誘導を行い、住民の人的被害を最小限にくい止めた。

②.....

..... ○○地区の避難誘導を行い、人的被害をくい止めた。

：

：

以下 略

⑤〔書式〕

推薦省庁名（ 文部科学省 ）

被害・出動状況等調書

ふりがな 団体名	
災害名 ・期間	
被害 状況	
出動期間	
出動者数	
効果	
災害の 特徴	
備考	

被害・出動状況等調書

ふりがな 団 体 名	かすみがせきまちしょうぼうだん 霞が関町消防団		
災 害 名 ・ 期 間	台風第10号の影響による集中豪雨 令和○年8月22日～8月24日		
被 害 状 況	<div> <div>◎降水量</div> <div>連 続 247 mm（8月22日～8月24日）</div> <div>日 最 大 243 mm（8月23日1時～24時）</div> <div>時間最大 40 mm（8月23日17時～18時）</div> </div> <div>◎水位</div> <div>霞が関川（1級）</div> <div>58.0m（警戒水位 55.0m）</div> <div>◎被害状況</div> <div>住宅被害 96 棟 111世帯 6,000千円</div> <div>非住宅被害 20 件 12,000千円</div> <div>以下 略</div>		
出動期間	<div>大雨注意報発表 8月21日 18時45分</div> <div>大雨洪水警報発表 8月22日 11時00分</div> <div>霞が関川水防警報（出動） 8月22日 15時00分</div> <div>水防活動 8月22日 15時20分～23時50分</div> <div>災害処理活動 8月23日 8時00分～15時00分</div> <div>二次災害防止活動 8月24日 8時00分～12時00分</div> <div>合 計 19時間30分</div>		
出動者数	<div>水防活動（避難誘導、人命救助を含む） 8月22日 延べ 134 名</div> <div>災害処理活動 8月23日 26 名</div> <div>二次災害防止活動 8月24日 22 名</div> <div>出動延べ人員（合計） 182 名</div> <div>その他</div> <div>水防資材 略</div>		
効 果	<div>◎想定被害防止額</div> <div>田 500ha 152,000千円</div> <div>畑 300ha 125,000千円</div> <div>◎その他</div> <div>人命救出 28名（孤立者救出）</div>		

効 果	家 屋 50戸 20,000千円 公共施設 4件 20,000千円 河川施設 20箇所 50,000千円 以下 略
災 害の 特 徴	8月22日から24日にかけて豪雨が降り続き、1時間最大雨量は40mmを記録、総雨量は267mmに達した。このため、霞が関川水系永田地区全域に河川の増水による氾濫・家屋の浸水及び道路の決壊・土砂崩れ等大きな被害をもたらし、浸水地区が広範囲にわたるなど、集中豪雨による災害として水害防止等に困難をきわめた。
備 考	